

話の発端はみなみらんぼうの新聞連載の山案内記事。筑波山の隣の里山と言われても誰も知らない山。代表が強くおした。そこで、今月の例会山行とあいなる。

秋葉原発のつくばエクスプレスでうんと近くなったつくば駅下車。ミニバスに乗り継いでつくば学園都市の人工的な街並みから出て田園地帯を走る車窓からはすっと立った双耳峰の筑波山の右手に宝篋山の姿が見えてくる。バスを降りた小田地区は、小田休憩所の案内図を見ると、戦国時代には小田氏の城があり、14世紀山麓に多くの寺院群が塔堂伽藍を連ねていた土地柄のようだ。

近年その宝篋山のハイキングコースが整備されて、今は6本のコースがある。小田休憩所を後に旧跡にちなんだ極楽寺コースを歩きはじめる。沢沿いにいくつかの小滝を見ながら登ると太郎こぶしというこぶしの巨樹に着く。そこから急な尾根登りがしばし続きやがて小広い山桜の森に着くと頂上は近い。エコトレを過ぎるといきなりぱらぱらと雨粒が落ちてきて雨具はどうしようかと思う間もなく雨はやんでくれた。頂上にはこの山の名前の由来の石の宝篋塔があるが、下からも見えていた巨大な電波塔があたりを睥睨している山頂だ。展望の山だけに今日はあいにく北面の筑波山は雨雲の中、西面の霞ヶ浦の輪郭がうっすらと見えるだけ。残念至極ですな。山頂で昼食をとり、帰路はなだらかな下りの杉の植林の多い山口コースを下る。途中に宝篋水なる名水が流れているところでめいめい水の甘露を味わう。里山から下りて秋の気配の濃い田園風景のなかをのんびり歩いて大池・平沢官衙バス停へ。再びバスでつくばセンターに戻って解散する。(松島)

参加者:池田真由美、植村澄江、内田敏子、織田澤美知子、金井一子、清水千枝子、深田美好、渡部温子、三井吉由江、村山祐嗣、千葉奈央子、宮澤真華、松島岳生(係り) 以上13名



宝篋山山頂、後方は筑波山 2012.11.13